

独自のセンスで
トレンドを生み出す
じん

株式会社 仁コーポレーション



代表取締役の仁泉ひとみ氏と
取締役会長の仁泉浩氏

事業拡大の背景

福岡県福岡市にある「株式会社 仁コーポレーション」（以下、仁コーポレーション）は、「デイサービスやぐらもん」（以下、やぐらもん）を運営しており、平成24年5月には団塊の世代を意識したりハビリ特化型デイサービスを新たに開設予定である。現在、やぐらもんは通所介護事業として祇園センターと筥崎センターの2拠点を展開している。

仁コーポレーションの事業展開は、介護事業

部・コンプライアンス事業部・キャリアデザイン事業部・幼児教育事業部と多岐にわたり、中でも介護事業部にはやぐらもんを展開する通所介護課をはじめ、居宅支援課、やぐらもんフランチャイズ事務局、福祉経営支援室などがある。

開設から順調に稼働率を上げ、地域でも注目度の高いやぐらもん。今回は、さまざまな仕掛けを生み出しつつ、やぐらもんののれん分けに乗り出した背景について、仁コーポレーション取締役会長の仁泉浩氏にお話を伺った。

施設概要

- 法人名 株式会社 仁コーポレーション
- 本社所在地 〒812-7601
福岡県福岡市博多区冷泉町1-3-214
- TEL / FAX 092-292-7601 / 092-409-8610
- ホームページ <http://www.day-yaguramon.net>
- 主要事業 通所介護事業（2拠点）

スタッフデータ（法人全体）

職種名	常勤	非常勤（常勤換算人数）
管理者	2	-
看護師	-	2
相談員	3	-
PT・OT・ST	1	1.5
介護福祉士	-	2
ヘルパー	2	1
介護職（無資格）	1	-
運転手	-	1
合計	9	7.5

【事業所情報】※通所介護施設

事業所名		デイサービスやぐらもん 祇園センター	デイサービスやぐらもん 筥崎センター	やぐらPOTS
定 員		20	15	15
1日平均利用者数		15	11	2012年5月 オープン予定
スタッフ数	常勤	3	2	3
	非常勤	12	5	4

※スタッフ数は実労働者数

デイサービスやぐらもんの特徴

「やぐらもん」という名称は、福岡県博多市で創業した祇園センターの所在地が、昭和40年代前半ごろまで矢倉門町^{やぐらもん}という地名であったことに由来している。「ご利用者様に親しみを持っていただきたい」との思いから名付けた。

そんなやぐらもんの特徴の一つに、専門的かつ豊富なメニューをそろえたレクリエーションが挙げられる。メニューは日替わりで毎週違うものを提供しているため、利用者はどの曜日を利用しても毎回違ったメニューを体験できる。この日替わりメニューのメインは、文化系・運動系・癒やし系に分かれた「やぐらもんタイム」と呼ばれるレクリエーションで、それぞれ数種類のメニューを提供している。また「博多情緒めぐり」という屋外歩行訓練兼外出レクリエーションや、音楽運動療法ではカントリーダンスの元世界チャンピオンのR I K A先生による「座ったままでもブーツダンシング」などがある。ほかにもエンターテイメ

ントとアミューズメントを融合した「エンタミューズメント」と呼ばれるレクリエーションなど、他施設にはないオリジナルの企画が多い。このように、充実した多数のレクリエーションがあること、一つひとつの活動が本格的であることが人気を呼んでいる。ただし、利用者の負担にならないよう、レクリエーションの時間は1時間以内としている。

また、元は医院が運営するデイケアだった祇園センターはJR博多駅からも近く、繁華街の中心に位置している。そこから7kmほど離れた筥崎センターは個人病院の2階にあった入院病棟を改装してオープンした。どちらも小規模で最低限のリフォームを施し、大掛かりな設備はほとんどない。

「デイサービスに必要なものはハードよりもソフトだと考えています」と仁泉氏。「大掛かりな設備ではなく、人と人とのコミュニケーションや触れ合いを大切にしていきたいと考えています。パンフレットにも書いていますが、〈笑顔でお越しいただき 笑顔で過ごされて 笑顔でお帰りい



カントリーダンスで楽しくリフレッシュ



入院病棟の受付を事務所として活用

ただける そんな“集いの場”であり続けたい
というのがやぐらもんの想いです。キーワードは
“笑顔”です」

この“笑顔”には場面ごとに「期待と希望」
「安心と信頼」「満足」という意味があり、それ
を（指標）としてパンフレットにも明示している。

このほかにも、セラピスト（PT・OT・ST）による専門的なリハビリと提案を行っており、
それがやぐらもんブランドとして定着している。

社 是

「以仁尽礼」（仁を以て礼を尽くす）
思いやりの心で人と向き合い
礼ある行いを終始心掛けること

笑顔の指標

- お越しになられたときの笑顔は
「期待と希望」の指標
- 日中活動のなかでお見せになる笑顔は
「安心と信頼」の指標
- お帰りになられるときにお見せになる笑顔は
「満足」の指標

豊富なレクリエーションメニュー

- PT・OT・STによる機能訓練（リハビリ指導・相談、自宅で行えるメニュー提案）
- 博多情緒めぐり（宮崎宮や崇福寺などをめぐる屋外歩行訓練兼外出レクリエーション）
- 本格的エンターテイメント（外部講師によるわか講演・教室、歌謡ショー、博多笑い塾など）
- やぐらもんタイム ～運動系～（外部講師によるカントリーダンス、フラダンス）
- やぐらもんタイム ～癒やし系～（コスセラピー、セラピードッグ）
- やぐらもんタイム ～文化系～（代表取締役 仁泉ひとみ氏による書道教室・フラワーアレンジメント教室）

ご家族には「安心」を、 ご本人には「思い出」を お届けするウィークリーレポート

ご家族が求めているのは「安心」だと言う仁
泉氏は、毎週欠かさず、利用者全員にウィーク
リーレポートを届けている。1人ひとりにあて
たコメントと共に、4～9枚の写真がA4サイ
ズ1枚に収められている。時間がかかる作業だ
が、仁泉氏自身が日曜日に作成している。独自
のサービスであるため、たとえ非効率でも徹底
して行い、手間を惜しまない。

「逆に、経費などの入力作業はソフトを導入し
て効率化を図り、省けるところは省いています。
作業的な部分はよりシステムチックにやってい
くことで、こうした手間を掛けることができる
のです」

また、このウィークリーレポートはご家族へ
の「安心」を多方面からサポートするのに役

立っている。ご本人には楽しかった「思い出」
として活用してもらう。一方、ご家族はたくさ
んの楽しそうな写真によって利用者の充実した
姿を見ることで、施設の様子を知ることができ
るという「安心」に加え、「やぐらもんに預け
て良かったんだ」と納得していただくための
「安心」も届けている。

例えば、世間体を気にしているご家族は、デ
イサービスへ親を預けていることに罪悪感や
「これでいいのか」という疑問を抱いている場
合がある。そのようなご家族への効果的な配慮
として、楽しそうに笑うご本人の写真をウィー
クリーレポートとして定期的に届けると、ご近
所に「おばあちゃん、最近どこに行っている
の？」と尋ねられても、堂々と「デイサービス
に行ってこんなに楽しそうなんですよ！」と
ウィークリーレポートを見せながら話してもら
いやすい。実際、「楽しそうなデイサービス」
という口コミがこうして広まっていった。

また、ウィークリーレポートは家族間での会話がないうちにも威力を発揮する。レポートを見ながら「この日はこんなことをした」という会話が生まれやすくなると同時に、「これは何をしているの?」といったご家族から自然に話しかける材料にもなっており、円滑なコミュニケーションツールとしての役割も担っている。



ウィークリーレポート

利用者だけでなく スタッフも集める ホームページの活用術

やぐらもんのホームページでは、施設ブログで毎日動画がアップされるほか、やぐらもんの特徴である多様なレクリエーションを多くの写真と共に紹介している。主に医療機関のブランディング経営を手掛ける制作会社に依頼した。見やすく、さまざまな仕掛けのあるやぐらもんのホームページにはいくつかのポイントがある。

1つ目は、やぐらもんの日常を動画で配信することで優秀かつトップの方針に共感・賛同してくれるスタッフを集めることができる点だ。^{ごんどう} 笹崎センター長の権藤氏は同社へ入職する前に、「やぐらもんの送迎車を見かけてインターネットで調べたところ、写真や動画がたくさん載っていて、施設のブログは毎日見ていました」と言う。また、PTの橋本氏は「『こうしてください』といった上から目線ではなく、PTとして、その方のライフスタイルに寄り添った+αの提案を心掛けています」と、サービスの質向上に余念がない。

2つ目は、利用者の獲得につながる点である。実際にインターネットでやぐらもんを見つけたご

家族が、トップページをプリントアウトして、直接「紹介してほしい」と利用の申し出にいられたこともあった。やぐらもんの場合、ケアマネジャーの話によるとここ1年でそういった事例が増えた。

現在の80歳代の方が介護サービスを利用しようとするとき、その子どもである団塊の世代が自分の親を預けるところを探す手段として、インターネットが手軽で便利なツールとなっている。将来、団塊の世代がデイサービスの利用を考えるようになったとき、「団塊の世代の方々は自分の行きたいところを自分で探すでしょう」と仁泉氏は確信している。

ホームページを活用し、自事業所の特徴やサービスを、広く、うまく伝えていくことが、これらを生き残るためには必須である。



権藤氏(左)、仁泉氏(中)、橋本氏(右)

やぐらもんののれん分け

「豊富なレクリエーションメニューとセラピスト（PT・OT・ST）によるリハビリ」という「やぐらもんスタイル」を確立し、定着が進んできた今、「通所介護サービスの王道を貫きたい」という仁泉氏はのれん分けの拡大に向けて動き出している。「デイサービスをやりたいという想いがあれば、『ゼロから始めるのは心配でしょうか、やぐらもんのノウハウを提供してお手伝いしますよ』というスタンスです」と仁泉氏は語る。

プログラムについては、「種類が豊富で、一つひとつが本格的なものを提供する」というやぐらもんのコンセプトが基本だが、既存のメニューを強制することはしない。そのため、実際に提供できる本格メニューをのれん分けの事業所が独自に開発する。

また、祇園・宮崎センターを起点に半径約4km（送迎30分以内の圏内）を目途に、マーケットが重複しないような店舗展開をしていく。起点から近いところから店舗展開をしていき、強靱な輪を作ってやぐらもんブランドのさらなる定着をねらう。

のれん分け1号店の代表である長岡氏は、親族が脳梗塞で倒れ、退院後に急激に状態が悪化した出来事をきっかけに、「現状を維持しつつ、少しでも良くしていくお手伝い如果能したら」という想いで介護を始めた。来年4月ごろには1号店をオープン予定で、コンセプトを継承しつつリハビリやエクササイズに力を入れていくという。

そして、来年5月には福岡市東区社領に本社ビルを建設し、1階ではいわゆる短時間型のデイサービスを開業予定だ（仮称・やぐらPOTS）。これについて、「団塊の世代を意識して機能向上訓練に特化したデイサービスを構想している」と仁泉氏。

「介護予防の方を中心にしたセラピストによる機能向上訓練は、決してフィットネスの延長線上にあるようなものではありません。毎日の評価に基づき、

ご利用者様各々に向き合った機能向上訓練を提供させていただきます。ハイタレントによる質の高いサービスこそ、やぐらもんの真骨頂です」

やぐらもんスタイルの確立からのれん分けの拡大と順調に事業拡大を進めている仁コーポレーション。独自の特徴をうまく打ち出し、明確なコンセプトによるサービス提供が魅力だ。



仁泉氏とやぐらもんののれん分け1号店開設予定の長岡氏（株式会社Smile）

